

ありがとう 骨髄移植

例到達

2000年11月16日、3000例到達!!

これまでの道のり、長かった？ あっという間だった？
さまざまな想いをこめた特集号です



ドナーの方と移植を受けて
元気になった方々

- 1 広井 譲さん（97年提供）
- 2 腰越梢恵さん（95年移植）
- 3 山崎揚久さん（94年移植）
- 4（上左から）
梅田正造さん（95年提供）
油野千里さん（95年移植）
大竹 文さん（94年移植）
康原龍次郎さん（97年提供）
（下左から）
大川はるみさん（96年提供）
西原真弓さん（95年移植）
- 5 池田弘志さん（94年移植）
- 6 菊田としえさん（95年移植）
- 7 藁谷貴弘さん（95年移植）
- 8 村地浩美さん（93年移植）
- 9 山本久夫さん（97年提供）
- 10 内田佳子さん（98年提供）
- 11 福島晃子さん（95年移植）
- 12 石崎ミチエさん（98年提供）
- 13 小西 薫さん（97年提供）
- 14 山下奈津子ちゃん（96年移植）
（写真中央）
- 15 名川和志さん（95年移植）
- 16 白水 豊さん（94年移植）
（写真右）
- 17 竹内智美さん（95年移植）
- 18 西村好弘さん（95年移植）
- 19 記野淳子さん（97年移植）
- 20 黒田修一さん（97年提供）

CONTENTS

写真でつづる3000例到達まで	2. 3
年譜・骨髄移植3000例のあゆみ	4. 5
移植3000例に寄せて	6. 7
明日の骨髄バンクのために ①	
二つの事故から学ぶこと	8. 9
日本骨髄バンクの現況	10. 11
明日の骨髄バンクのために ②	
進む「コーディネート改革」	12. 13
ご支援ありがとうございます	14. 15
おしらせ・INFORMATION	16

ひとりでも多くの患者さんのために



安心して提供できるために、 ドナーの心身の健康を見守るコーディネーター

92年8月、コーディネート業務開始。94年8月、3次検査にDNA検査を導入するなど大幅にコーディネートマニュアルを改訂、94年から一般公募によるコーディネーター養成を開始。2000年からの3年計画では年間移植1000例と、コーディネート期間100日の短縮を目標としています。

(写真：採取後のドナーさんを見舞うコーディネーター)



移植チャンスを広げるために 「国際協力」を

97年にNMDP(全米骨髄バンク)と提携、TCMDR(台湾骨髄バンク)と試験的提携を開始。98年にはBMDW(世界骨髄バンクドナーデータ集計システム)に参加。双方の国内で適合者が見つからない患者さんにとっては、大きく移植チャンスが広がります(これまでの国際提携による移植例は127例)。

(写真：97年の台湾骨髄バンクとの提携に関する協議)



「願いは、ドナー登録30万人」を 合言葉に 地区普及広報委員

骨髄バンクの普及広報に関して、各地域において普及啓発のための各種イベントの計画立案、都道府県・支援団体等とのジョイント事業(講演会、シンポジウム、コンサート等)、募金活動を積極的に推進するため、1995年公募を開始しました。昨年度からは、平日はお仕事で時間がとれない方々にドナー登録の機会を提供するため、休日のキャンペーン登録会の開催・運営を中心に活動しています。

(写真：1997年、地区普及広報委員研修会)

ありがとう

骨髄移植

例到達

移植3000例到達という成果は、何よりもご提供されたドナーの方々の献身の結果であり、それを支えられたご家族をはじめ各方面のご理解とご支援の賜です。心から御礼を申し上げますとともに、この事業を各分野で担当されている皆様のご尽力に感謝いたします。



移植：患者さんにとっては病気克服への希望です

93年第1例実施 94年100例 95年500例 97年1000例というペースでの伸び率だったのが、登録者10万人に達した98年以降には99年5月 2000例 2000年11月 3000例到達と急激な伸び率を示しています。登録者30万人達成と、コーディネート期間短縮の目標に向けて進むにつれ、いっそうの伸びが期待されます。

(写真：移植後の患者さん・無菌室で)



骨髄採取：ドナーの安全のために 細心の注意

まったく健康な方に、本人には必要のない医療行為を行うことになるのですから、他の医療行為にも増して細心の注意が払われ、常に改善される方向にあります。採取後の経過についても、さまざまな角度からの健康チェックが行われます。(写真：採取の様)

医療現場から

ご支援いただいています

祈りと願いを歌にこめて ホセ・カレーラス氏来日

白血病を骨髄移植によって克服し、その感謝からコンサート活動を通じて血液難病の治療研究を援助しているスペインの世界的テノール歌手ホセ・カレーラス氏。「日本の骨髄バンク発展に役立てれば」と1992年、97年の2回、チャリティコンサートに無料出演。美しい歌声を響かせました。



もえちゃん・元気な姿でACキャンペーンに出演

97年の公共広告機構(AC)の骨髄バンクキャンペーン「親でさえ一致しなければ骨髄液をあげることはできない」篇にもえちゃんはお母さんと出演。99年「命の恩人はあなたかもしれません」篇では、移植で元気になった姿で再登場。たくさんの人々に感動と勇気をくれました。

(写真：もえちゃん・99年ACキャンペーンのポスター)



行動力と情熱いっぱいボランティアさんたちです

99年夏、北は北海道、南は沖縄から東京を目指したキャラバン隊は、全国47都道府県を回り、走行距離はおよそ2万kmにも及びました。2000人もの参加ボランティアさんたちの熱い思いがあって成し得たことでした。

(写真：早稲田大学大隈講堂で、南北両方からのキャラバン隊ゴールイン)

「骨髄バンクを応援する 若手国会議員の会」

94年、野田聖子衆議院議員(元郵政大臣)が呼びかけ結成。会員の勉強会、議員会館でのシンポジウム開催、行政への働きかけなど、活発に活動を展開しています。(写真：野田聖子衆議院議員)



ライオンズクラブ ロータリークラブ

骨髄バンクは、物心両面において各界各層にご協力をお願いしていますが、ライオンズクラブ、ロータリークラブには、骨髄バンクを正しく理解いただくための普及啓発、財政面を含めた社会的支援などに積極的に取り組んでいただいています。

(写真：1995年10月18日 東京地区ライオンズクラブの骨髄バンク支援一斉キャンペーン 東京・新宿アルタ前)



中村勘九郎さんも ドナー登録されています

99年12月14日、四十七士討入りの日、当時、NHK大河ドラマで大石内蔵助を演じていた中村勘九郎さんが骨髄ドナー登録。登録前は注射が苦手ということで、討入りよりも緊張?した勘九郎さん、採血後は、ドナーカードを手に笑顔が戻りました。(写真：赤十字血液センターで)

2000.11.16

非血縁者間骨髄移植

3000例到達



命をつなぐ3000の橋

骨髄液の搬送には万全を期して、渋滞などその日の状況に左右されない、安全な交通手段と搬送ルートが選ばれます。搬送者は「自分の身に何か起こったときはケースを 病院まで届けてほしい」と記載したカードを身につけていることもあります。無事に届け終えるまでの緊張を延べ3000人の搬送者が経験したことになります。

ドナーが見つからず移植を待っている患者さんがまだ、たくさんいらっしゃいます。3000例までの間に移植を受けられずに亡くなってしまった患者さんのことも忘れられません。ひとりでも多くの患者さんに命の橋がかけられますよう、皆様の一層のご理解とご支援をお願いいたします。



職場でもドナー登録ができるようになりました

厚生省の通達改正により、企業、官公庁などで診療所・病院がある事業所がドナー登録会を開催できるようになりました。

1999.5

骨髄移植

2000例



ドナー登録者数10万人突破

1992年1月に受付が開始された骨髄バンクのドナー登録は、6年8ヵ月目の1998年8月13日に第一段階の目標10万人を突破。現在はより多くの患者さんに移植の機会を提供するため、30万人を目標に日々キャンペーン活動を展開しています。

(写真：8月13日厚生省記者クラブにおける記者会

1992

1月 ドナー登録受付開始

1993

- 1月 日本骨髄バンクによる骨髄移植第1例の実施
- 4月 国家公務員に「骨髄ドナー特別休暇」制度導入
- 6月 大阪毎日放送制作「10万人目の奇跡」CMが話題に
- 9月 国際協力による海外患者へ骨髄提供第1例
- 10月 公共広告機構（AC）の骨髄バンクキャンペーン開始

1994

- 2月 日本骨髄バンクによる骨髄移植累計 100例
- 5月 ドナー登録者数5万人突破
- 7月 コーディネートマニュアル大幅改訂 3次検査にDNA検査導入
- 10月 全国の保健所(100カ所)で「ドナー登録受付」開始

1995

9月 日本骨髄バンクを介した骨髄移植累計500例

1996

- 8月 3次検査でより詳しい検査法（HLA-D R座のDNA検査）を導入
- 12月 「骨髄バンク創立5周年記念全国大会」開催

1997

- 1月 日本骨髄バンクによる骨髄移植累計1000例
- 4月 骨髄ドナー登録時に1次・2次検査(HLA-A座、B座及びDR座)を同時実施
日本骨髄バンクとNMDP（全米骨髄バンク）が提携し国際コーディネートを開始
TCMDR（台湾骨髄バンク）とも試験的提携を開始
- 9月 国際協力による骨髄移植第1例の実施（NMDPからの提供）
- 11月 第1回公開フォーラム開催

1998

- 4月 BMDW（世界骨髄ドナーHLA種類別データ集計システム）に参加
HLA照合サービス（主治医からの照会に応じて、患者さんとHLA型が適合するドナーの有無、人数を無料で報告）を開始
- 8月 ドナー登録者数10万人突破
- 10月 韓国に骨髄提供第1例
- 12月 『チャンス』（ドナー登録用パンフレット）改訂による登録手続きの簡素化

1999

- 1月 「患者登録年齢、病期」等、移植適応条件を拡大
- 5月 「HLA1抗原不一致」移植適応条件を拡大
日本骨髄バンクによる骨髄移植累計2000例
KMDP（韓国骨髄バンク）との仮提携による相互コーディネートサービスを開始
- 11月 放射線被曝事故患者の緊急コーディネート開始
- 12月 インターネットによる一般向けのHLA照合サービス開始
放射線被曝患者のコーディネート終了

2000

- 1月 DLT（ドナーリンパ球輸注療法）を白血病等の再発に対し開始
- 3月 韓国（KMDP）からの骨髄提供による移植第1例
- 6月 厚生省、キャンペーン登録会のための「骨髄提供希望者登録推進事業」実施要綱の一部改正を通知
- 11月 日本骨髄バンクを介した骨髄移植累計3000例

移植3000例のあゆみ

1991年(平成3年)12月に(財)骨髄移植推進財団が設立。

翌92年1月にドナー登録受付を開始し、6月からは患者登録受付とコーディネイト検索を開始しました。

骨髄バンクを介した移植は、93年(平成5年)1月28日に第1例を実施、4年後の97年(平成9年)

1月には1000例に至り、1000例から2年4ヵ月目の99年5月13日、2000例に到達。

そして本年11月16日、財団設立から8年11ヵ月目にして3000例を迎えました。



中堀由希子さんTVコマーシャルに出演
多くの人が「骨髄移植」について実際に知るきっかけになりました。



1997 骨髄移植1000例 全国一斉街頭キャンペーン

2月9日、真冬のさなか、全国およそ150ヵ所で、ボランティアの方々をはじめ約2500人を越える参加者がありました。



1997 第1回公開フォーラム開催

11月8日、9日。厚生省、日本赤十字社、医療関係者、法律家、ボランティア団体、患者家族、マスコミ関係者など約120人が参加。11時間におよぶ公開討論会となりました。

1993.1
骨髄移植
第1例の実施



1995.9
骨髄移植
500
例



1997.1
骨髄移植
1000
例



1996



5周年記念骨髄バンク全国大会

12月14日、東京・経団連会館において5周年記念骨髄バンク全国大会を開催。全米骨髄バンクとの提携に先駆け、パトリシア・コッポさん(NMDP最高運営責任者)をお招きして米国の現状紹介、ドナーリクルートなどの方法や状況の相違点を中心にディスカッションが行われました。NMDPのシステムの学習と日本の仕組みを見つめなおす場となったシンポジウムでした。

空輸されてきた骨髄液を受け取る

9月24日、NMDP(全米骨髄バンク)の骨髄液搬送者と岡本真一郎財団国際委員長。日米骨髄バンク正式提携後初の骨髄液が成田に着いた瞬間です。



1998



「チャンス」が新しくなりました。

「ミッフィー」ちゃんでおなじみのディックブルーナ氏がデザイン提供。

3000例

これからも伝えていきたい想いがあります

患者登録開始から8年4カ月。1993年1月骨髓バンクを介しての非血縁者間骨髓移植第1例から、2000年11月、3000例到達までの7年10カ月。たくさんの方々が様々な思いを胸に抱いて、ここまでできました。その年月を振り返って、さらに希望に満ちた未来のために、それぞれの立場から「骨髓移植3000例」への想いを語っていただきました。

ひとびとが、社会が成熟してきました

一例、一例を支えた方々、皆様に感謝します



患者の立場から

● おおたに・たかこ

大谷貴子

1988年、母からの骨髓移植で白血病完治。以降、骨髓バンク運動にまい進。95年、朝日社会福祉賞受賞。元財団普及広報副委員長、全国骨髓バンク推進連絡協議会副会長。現在も骨髓バンク普及講演活動を全国展開。

たとえば「骨髓バンク普及」と銘打たない講演会会場でも「実は提供しました」と名乗りをあげる人が一人二人あるんです。そういう方たちはたいいてい、提供したことがきっかけで普及活動に参加することになって、会場で「ぼくでもできました」と登録を呼びかけてくださる。もちろんどの講演会場でも「バンクの名前を聞いたことがない」という人のほうが多くなりました。

10年前に私が発病した当時は、白血病って、よく分からないけど「難しい病気」程度の社会的認識しかなかった。医者をしてる父でさえ「骨髓移植は骨をあげること」と思っていた。大きな変化を感じますね。何よりうれしく思うのは、患者さんや移植体験者がどんどん前へ出てきてくださるようになったこと。体験を語ることをとおして、社会的な活動ができる、周りの環境も成熟してきたということです。また、嬉しいことに骨髓バンクを通して移植を受けた患者さんどうしのカップル、



コーディネーターの立場から

● こたき・みか

小滝美加

91年から94年、東海骨髓バンクで事務局員として活動。95年財団東海地区事務局員、97年に中央事務局業務部配属。現在はドナーコーディネーター総括業務を担当。

今は1カ月に60〜70例の移植が実施されています。これはバンク設立当初のころの年間移植数に及ぶ数です。たくさんの方々の協力とさまざまな改善と努力の積み重ねの上に達成された3000例なんです。「黄信号は待って、次の言で渡る」「夜ふかしせずに、お酒は控えめ」提供が決まったドナー候補の方がよく言われます。「自分ひとりの体じゃない」という思い

ですね。提供を意識しつつリラックスして日常生活を送ることの大変さを3000人が体験されたということです。けれど、ドナーの方の周りには、食事に気を使った奥様や励ましたお子さん、理解を示した職場の上司、エールを送った同僚もおられました。それから、意思を持ちながら最終的に適合しなかった方、健康上の理由その他でコーディネーター中止になった方々も含めて考えると、何倍もの人たちが1例に関わったことがわかります。その全部の人たちに静かに感謝したい気持ちです。

たくさんの方たちの協力で一層の発展を

小寺良尚



医師の立場から

● じぶんでよひび

財団理事・企画管理委員長、東海骨髄バンクを医師として牽引
1992年、国内初のアメリカからの「輸入」骨髄で移植
名古屋第一赤十字病院内科部長

厳守してきました。その姿勢も社会の信頼を得る大きなかぎになったと思っています。

まずは3000人のドナーの方たちに敬意を表します。これまで合併症その他の重篤な症例がなかったことを何よりも喜ぶべきことだと思います。つい最近のドナーの方への健康被害事例が何例が続いた状況後にも、ドナー候補者の方々はすこしもゆるがず、意思を撤回することなく骨髄を提供していただきました。素晴らしい方たちです。

設立当初から財団は情報公開を明言し、

しかし手放して喜んでばかりというわけにはいきません。1992年の6月に患者登録が開始されてから現在までに一人を超え患者さんが骨髄移植を希望されたという事実の前に、やはり移植の機会を得られなかった5000人にどうしても思いが及びます。一人でも多くの患者さんがチャンスを得られるために、ボランティアの方々、財団、医療施設が一体となってさらに発展していかねばなりません。

ずっと伝え続けたい、「生きたい」願い

刀根麻理子

● とね・まりこ

歌手・エッセイスト、骨髄移植をテーマにした、東京コミュニケーションアート専門学校上演のミュージカル「明日への扉」の制作に携わり、トークショーに出演するなど、パナリスト、シンポジストとしてバンク普及活動に参加

告知後、ひどいショックを受けていた患者さんが、移植を受ければ治るチャンスがあると知ったとたん病気に対して前

ボランティアの立場から

向きになる。私たちには想像もつかないすごいエネルギーです。その訴える力が市民を動かしてきた3000例なんです。「タイミングも大事な治療」といえるなかで、同じ年数で3000が3倍にも10倍にもなるために私なりに何ができるかを考えた時、ともすれば個人主義的傾向に流れがちな現代にあつて、「自分以外のものへ心が及ぶ」、そんな意識付けが子どもたちできればという気持ちで、いつも作品作りにあたります。

さらに開かれたバンクをめざして

田辺 功

● たなべ・いさお

朝日新聞社編集委員、1976年より同新聞社科学部記者として医療関連を専門に担当。黎明期から取材活動を通じて骨髄バンクを支援。



報道の立場から

骨髄移植医療は他のモデルともされるべき高い公開性を有しています。いいことも、悪いことも公開する姿勢が人々の信頼感を得、短期間に3000例達成を可能にした大きなファクターだと言えるでしょう。

他の医療に比べて最も特徴的なのは支える人たちの層の厚さです。各地のボランティアさんたちの普及活動がドナープール拡大にどれほど貢献してきたか、計

り知れません。どんな時にも変わらないそのエネルギーと熱意に心から敬服します。

「骨髄移植」に対する認識はすいぶん社会的に浸透してきました。しかしそれは裏を返せば、報道の立場からはニュースになりにくくなったということでもあります。

今後さらに発展していく方向をめざし、様々な切り口で話題を提供してほしいものです。くり返し、くり返し訴えかけることによって、社会は理解と親近感を抱くよつになるのだと思います。これから

ドナー安全委員会の 対応と責任

司会 まずドナー安全委員会の役目についてから。

黒田 自分の病気を治すためなら、手術に多少のリスクがあっても許容されます。でも、善意のドナーには本来リスクがあつてはいけない。現実にはリスクが存在しますが、それを最小限に抑えることが、バンク事業の大前提です。

迫田 ドナーは病人ではなく健康な善意の方ですからね。

三田村 昨年4月から黒田さん、迫田さん、柳田邦男さん、私の4人の医師でないメンバーがこの委員会に入りました。一般市民の視点が大切だと思います。

迫田 そのためには、情報開示を進める

ことが欠かせないですね。

黒田 人間が扱っている限り、「まさか」が起こってしまうことがあるが、そのときには、迅速に正しい判断をする危機管理能力が大切です。もう一つは、それが起きた原因を徹底的に調べ、同じようなことが起こるのを防止する対策を打つことが重要です。「事故になリかねなかつたヒヤリ事例」を分析して、実際に事故が起こることを予防することが何よりも大切です。

迫田 起こり得ることを全て想定した上でさらに二重、三重の安全対策を打つことが役割とします。

事故事例の教訓を 生かすために

司会 愛知医科大学で起こった事例では事前にチェックできなかったことで財団にも責任があり、再発防止策を発表しました(下コラム参照)。

三田村 この周知徹底によって、この種の事例の再発は防げます。ドナーの採取前健康診断の結果が、確認の意味で移植病院側にも届くようになるというのは大きな改善点ですね。

迫田 移植施設が前処置に入るときに採取計画を確認するようになることも重要ですね。

中 財団のドナー安全対策として大切なのは、責任追及ではなく、再発防止のため原因追求です。

黒田 作業の仕組みや体系は、必ず多重の対応をしておかないと、どこかが抜けるときに、間違いが起こる。一方では、事故対策のため何重にもバックアップを

二つの事故から学ぶこと

白血病などの血液難病の患者さんに生きるチャンスを与えるために骨髄を提供してくださるドナーの方の善意に応えるべく、その安全性を第一に考える。骨髄バンク事業の前提です。

(財)骨髄移植推進財団は常に安全対策に真剣に取り組んできました。

しかし、報道などでご承知のとおり、残念ながら二つの事故が発生してしまいました。

財団はこれを重く受け止め、徹底して検証するとともに、これに学び、

具体的な防止策につなげるべく、ドナー安全委員会の方々ははじめ有識者の方々にお話しいただきました。

骨髄ドナーに発生した 事故事例についての報告

本年7月中旬、患者さんの前処置開始後に、愛知医科大学附属病院で骨髄採取予定のドナー候補者が貧血のため不適合であることがわかり、移植を中止した事例。

財団は、この患者さんのために、緊急コーディネート開始を決定。他ドナーとのコーディネートによって9月、患者さんは無事骨髄移植を受けられました。当財団は、原因が採取担当医師がドナーの健康状態の確認を怠ったこと、また期限内に骨髄採取計画書を作成・提出しなかったことであると認識していますが、当財団においても、このような採取施設のミスを未然に防止する機能、あるいは仮にミスが起こってもトラブル化することを抑止する機能が存在していなかった事実があります。

そこで、上記施設の採取認定の一時停止と、全国の認定施設への緊急安全情報の通知を行うだけでなく、骨髄採取計画書提出督促の強化、術前健診結果の地区事務局から採取施設への電話確認の追加、移植病院への採取・移植日程最終確定通知の新設からなる、一連の再発防止策を講じました。

本年9月下旬、琉球大学での骨髄採取終了後、ドナーが下腹部痛訴えられたため検査したところ、1500cc程度と推定される大

*ドナーの方々の安全を確保するためには、課題も残されています。次号以降もドナーの方の安全について、様々な角度から光を当てて検証していきます。



座談会出席者（順不同）

黒田 勲

ドナー安全委員会委員
日本ヒューマンファクター研究所長
航空機事故、薬害などの調査、対策、予防が専門



迫田 朋子

ドナー安全委員会委員
日本放送協会解説委員
主に医療問題を専門に活躍



三田村 真

ドナー安全委員会委員 骨髄提供経験者
特定非営利活動法人 全国骨髄バンク
推進連絡協議会事務局員
琉球大学での事例の調査委員会メンバー



中 達哉

財団理事、企画管理委員会委員、コーディネート委員会委員
ライオンズクラブ330-A地区 00～01年度献血・
骨髄移植推進委員会副委員長
骨髄提供経験者



司会 埴岡健一

(財)骨髄移植推進財団事務局長



量内出血による後腹膜血腫があることが判明した事例。

こつた事例は、これまで日本の骨髄バンクでは一度も発生していません。現在、原因を究明中ですが、骨髄採取する際に血管を傷つけた可能性が否定できません。幸いなことにドナーの方は順調に回復されて、間もなく退院、社会復帰されました。

財団はこの事態を重視し、原因が明らかになり対策が講じられるまで、当該施設での骨髄採取の停止を通知しました。また善意から提供されているドナーの方々の安全を確保するために、全国116の採取認定施設に対し、「骨髄穿刺の部位と深さに十分注意するよう」緊急安全情報を出しました。

しっかりと情報開示が信頼の基礎

ま（11月下旬現在）は、まだ原因について結論が出ていません。

司会 この2件の事故に対する財団の対応についての感想は？

三田村 発表した後の新聞や一般市民の反応を見てみると、やっぱりきちんと発表をしたということは、高く評価されている印象を持っています。

中 これまでも、骨髄提供者の死亡事例がかつて掌握していた以外にも海外であったことが分かったとき、骨髄の凍結保存と不使用方法があったときなど、財団では「悪い情報」についても、積極的に

開示してきました。

一見、不利であるようなことでも、ドナーに関する情報をきちんと提供することが大事だと思います。そのうえでしっかりとした対策を示せば、ドナーを始めとした皆さんの信頼を大きく損ねることはないと思います。

迫田 小さなトラブルでもきちんと報告して、それを防ぐ対策を積み重ねる。何かを隠していたことが明らかになるようなことがあれば、その時の国民の反発は事故が起こったという事実以上に大きい。いったん不信を持たれると、回復は難しいものです。

黒田 事故が起こったという事実だけでなく、防止するために何をやるかが一緒に提示されないと、ドナーの方の恐怖感を高めることになってしまつた。

司会 最後に特に強調したいことを。

迫田 血縁からの提供と、第三者の提供は全く違うという意識が必要で、ドナーサイドの視点を、採取する医師や財団に関わっている医師に、さらに強く意識してほしいと思います。

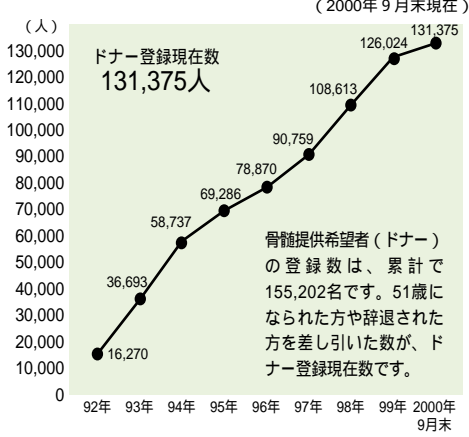
中 やはりドナーの方の安全が第一。もし何か失敗が起こってしまったときは、その教訓を生かして前進してほしい。

三田村 ドナー登録者30万人を目指していますが、バンク支援者がドナー登録を広く訴えるためにも、ドナーの安全性について納得ができる必要があります。

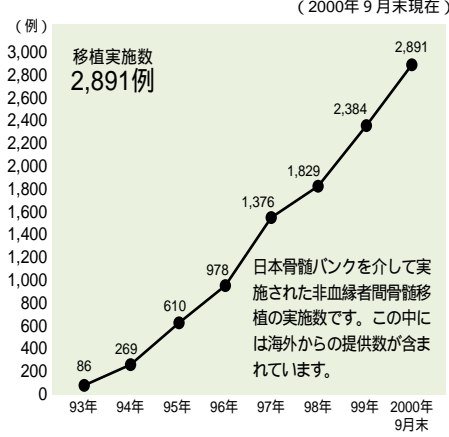
黒田 安全確保や原因究明に医療技術や費用の限界が存在するときもあるだろうが、善意で支えられたバンクですから、善意に応えられる仕組みを整備することが基

日本骨髄バンクは、1992年1月のドナー登録開始以来、多くの皆様方のご協力により、2000年9月末現在、ドナー登録者数13万1375人に達し、骨髄バンクを介した移植数も2000年11月16日には3000例になりました。ご提供いただいたドナーの皆様には心から感謝申し上げます。

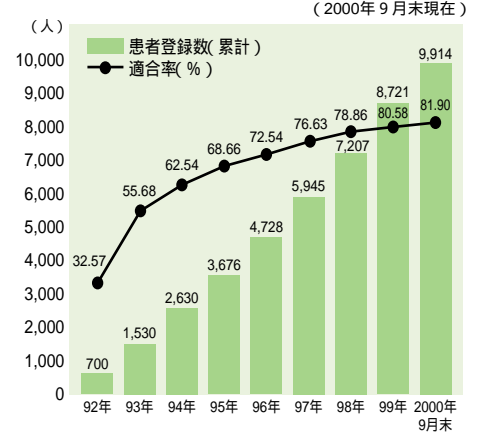
ドナー登録者推移



移植実施数推移



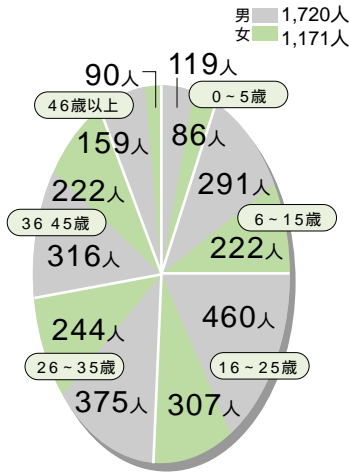
患者登録数・適合率推移



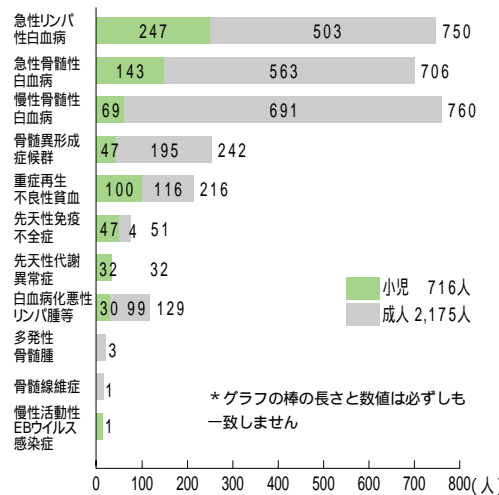
非血縁者間骨髄移植の状況 2,891例

移植患者の状況

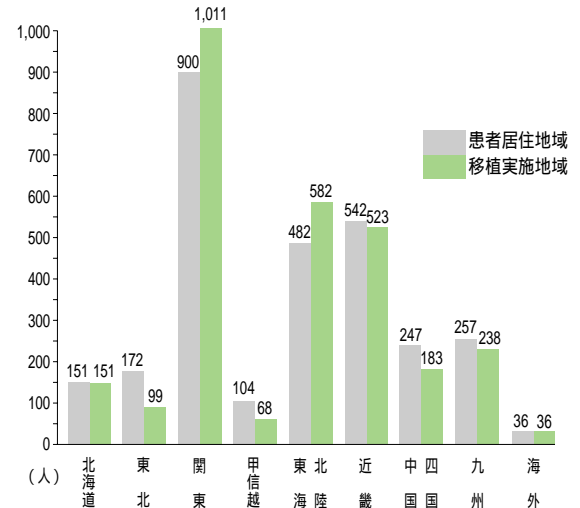
移植患者年齢・男女別



移植患者疾患別

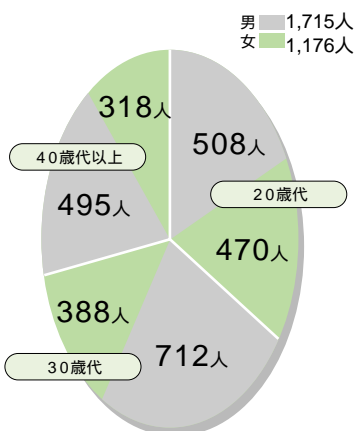


移植患者住居地および移植病院所在地別

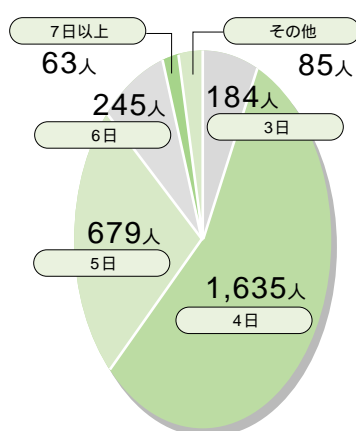


提供者の状況

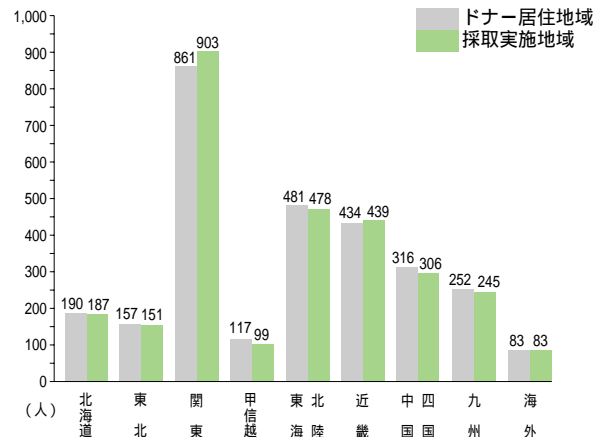
骨髄提供者年齢・男女別



骨髄提供者の入院日数



骨髄提供者住居地および採取病院所在地別



非血縁者間骨髄移植・採取件数の病院別一覧表患者・ドナーのコーディネート状況 (2000年9月末現在、計2,891例)

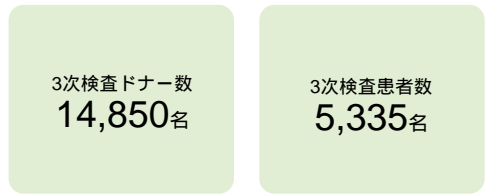
●印は国際協力認定病院・全国41ヵ所(2000年10月31日現在)

2000年9月末現在

認定施設名	移植件数	採取件数	認定施設名	移植件数	採取件数
●北海道大学医学部附属病院	52	54	県西部浜松医療センター	8	14
●札幌北楡病院	67	72	静岡県立総合病院	8	24
札幌医科大学医学部附属病院	19	29	静岡県立こども病院	9	8
総合病院旭川赤十字病院	12	30	●名古屋第一赤十字病院	152	64
旭川医科大学附属病院	1	2	●名古屋第二赤十字病院	55	20
弘前大学医学部附属病院	11	16	●名鉄病院	110	64
●秋田大学医学部附属病院	17	31	名古屋大学医学部附属病院	23	21
岩手医科大学附属病院	9	15	名古屋掖済会病院	8	21
東北大学医学部附属病院	18	47	国立名古屋病院	12	20
東北大学加齢医学研究所附属病院**	15	2	愛知医科大学附属病院*	2	22
山形大学医学部附属病院	17	12	名古屋市立大学医学部附属病院	11	9
福島県立医科大学附属病院	12	28	愛知県がんセンター病院	3	2
●茨城県立こども病院	41	32	愛知県厚生農業協同組合連合会更生病院	5	8
筑波大学附属病院	4	10	愛知県厚生連昭和病院	21	15
自治医科大学附属病院	18	27	藤田保健衛生大学病院	14	11
獨協医科大学附属病院	21	11	三重大学医学部附属病院	32	41
●群馬県済生会前橋病院	46	16	山田赤十字病院	2	1
群馬大学医学部附属病院	13	3	滋賀医科大学附属病院	17	32
●埼玉県立小児医療センター	25	0	●京都大学医学部附属病院	44	28
●埼玉県立がんセンター	29	41	京都府立医科大学附属病院	12	13
埼玉医科大学附属病院	14	16	社会保険京都病院*	0	23
深谷赤十字病院	9	3	京都市立病院	4	25
●千葉大学医学部附属病院	64	33	●大阪府立成人病センター	56	89
●千葉県こども病院	18	0	●近畿大学医学部附属病院	48	36
国保松戸市立病院*	4	9	●大阪大学医学部附属病院	63	27
亀田総合病院	12	4	大阪市立大学医学部附属病院	2	0
東京慈恵会医科大学附属柏病院	13	26	●大阪府立母子保健総合医療センター	76	17
千葉市立病院	9	7	松下記念病院	19	36
千葉県がんセンター**	4	9	●関西医科大学附属病院	10	16
●国立がんセンター中央病院	71	36	●兵庫医科大学病院	81	20
●東京大学医科学研究所附属病院	62	101	●兵庫県立成人病センター	38	25
東邦大学医学部附属大森病院	5	27	神戸市立中央市民病院	28	29
●東京都立駒込病院	99	40	神戸大学医学部附属病院	9	17
日本大学医学部附属板橋病院	23	28	天理よろづ相談所病院	13	3
●東京慈恵会医科大学附属病院	38	62	奈良県立医科大学附属病院	3	4
●慶應義塾大学病院	75	70	鳥取県立中央病院*	1	11
東京医科大学病院	10	27	鳥取大学医学部附属病院	16	19
東京医科歯科大学医学部附属病院	12	36	国立岡山病院	17	22
●東京大学医学部附属病院	41	13	財団法人 倉敷中央病院	19	44
虎の門病院	15	18	岡山大学医学部附属病院	11	29
東京女子医科大学病院	5	2	●広島赤十字・原爆病院	64	100
国立病院東京医療センター	2	6	山口大学医学部附属病院	16	37
東京都立府中病院	7	3	●愛媛県立中央病院	39	44
国立小児病院	2	1	九州大学医学部附属病院	29	24
●横浜市立大学医学部附属病院	54	74	●原三信病院	28	17
●神奈川県立がんセンター	38	30	●浜の町病院	31	22
●神奈川県立こども医療センター	28	0	●国立病院九州がんセンター	33	13
●東海大学医学部附属病院	74	46	聖マリア病院	16	15
聖マリアナ医科大学病院*	6	25	社会保険小倉記念病院	16	29
●新潟大学医学部附属病院	28	42	佐賀県立病院好生館	2	9
新潟県立がんセンター新潟病院	12	14	●長崎大学医学部附属病院	28	19
山梨医科大学医学部附属病院	0	1	●国立熊本病院	20	16
信州大学医学部附属病院	7	26	熊本大学医学部附属病院	2	6
●佐久総合病院	21	8	大分医科大学附属病院	13	25
長野県立こども病院	0	8	宮崎県立宮崎病院	9	18
●富山県立中央病院	43	34	鹿児島大学医学部附属病院	7	24
●金沢大学医学部附属病院	40	38	今村病院分院	1	1
金沢医科大学病院*	1	5	琉球大学医学部附属病院	3	7
福井医科大学医学部附属病院	8	18	その他(海外)	36	83
浜松医科大学附属病院	15	18	合計	2,891	2,891



HLA 適合 検索



最終同意・移植日程調整 **3,492組**

骨髄提供・移植実施数 **2,891例**

フォローアップ

- 注1.ドナー登録数は、年齢超過や登録辞退者等を除いた登録者現在数
- 注2.患者登録数は、登録開始からの累計数。患者登録現在数は、移植完了者、登録取消者を除いた登録者現在数
- 注3.HLA適合者数は、HLA-A、B、DR座が一致した累計数
- 注4.3次検査数は、確認検査のために採血検査した累計数
- 注5.最終同意数は、ドナーとその家族からの提供同意書が確認され、採取・移植日程の調整に入ったドナー・患者の組み合わせ累計数
- 注6.移植提供・移植実施数以外の各段階の数字は、コーディネートが中止となった例数を含みます

*印のついた病院は、10月31日現在、採取のみ認定病院となっています。基準を満たした時点で移植病院として再認定されます。
**印のついた病院は、現在、移植・採取病院ではありません。移植件数は、採取されたものの移植に至らなかったものが2例含まれています。

より多くの患者救命のため、全体を見直しドナーの方にも分かりやすくします

進む「コーディネート改革」

当財団では、現在、患者とドナーの方に対するコーディネートを進め方を見直し、順次改善していく作業を行っています。目的は、言うまでもなく、骨髄バンクの使命である「さらなる患者の救命」。

そのために患者さん側とドナーの方のご協力をより多く求める部分も含まれています。

- 1 一人の患者のために同時にコーディネートされるドナー候補者の数を最大3人から5人に拡大
- 2 ドナーの方の都合があれば、患者が希望する移植日程に合わせて調整する仕方の導入
- 3 ドナーの方に対する、「コーディネート終了と保留の明確化」などです。

ただし、もちろん、ドナーの提供意思の尊重や健康状態の確認については、これまで同様に厳守します。また、業務基本マニュアルの公開なども行っていきます。

コーディネート・ルールの変更 皆様の理解をお願いします

当財団では、現在「コーディネート業務改革」を進めており、順次「コーディネート」のルールを変更しています。ここでは、特にドナー候補者のみなさまに関係が深い点についてご説明をし、ご協力とご理解をお願いしたいと思います。

業務改革の大きな目的は、さらなる患者の救命を行うため、コーディネートにかかる全体の時間を短縮することです（もちろん、コーディネートの正確性、確実性を高めることも、重視しています）。

移植を希望しながら、移植が間に合わず病状悪化で移植を断念される患者が年間三百人程度いらっしゃいます。そのほとんどの方が、移植のチャンスを得ることなく、

お亡くなりになっているものと思われま

コーディネート期間短縮 急がれる迅速化

なかには、病状の推移をみながら移植を選ぶかどうか慎重に考えなければならぬ患者さんもおられるなど、病状により最適な選択は種々異なりますが、一般に移植までの期間が短いほど治療に好ましい患者が多いのです。ですから、「コーディネートの迅速化」が、とても重要になります。

では、コーディネートにはどこに時間がかかっているのでしょうか。下の図をくぐんでください。患者側とドナー側に大きく分けて、コーディネートの各段階とその所要時間を表しています。ドナーの方と関わらない部分でも、主治医（患者）が移植の実施と最終ドナー候補の決定を判断するの

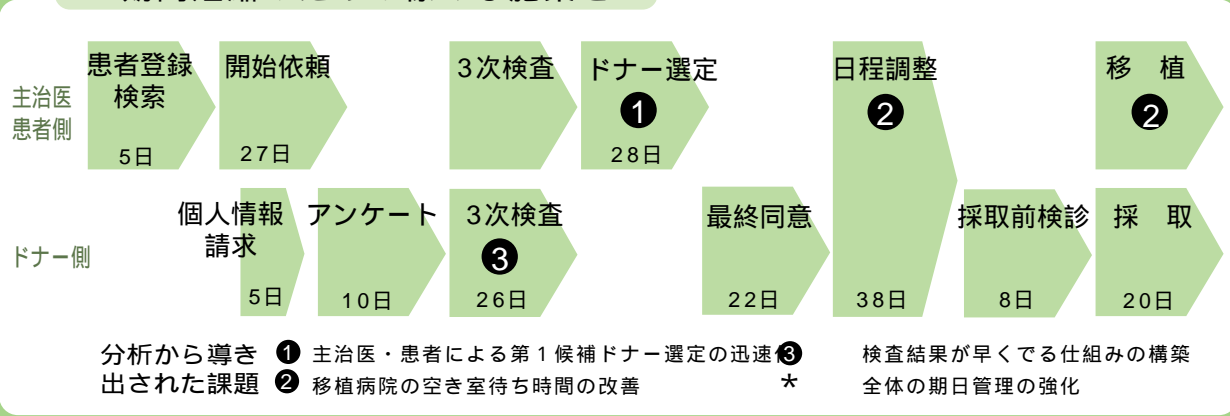
にかかる時間 検査とその結果報告にかかる時間 移植病院の無菌室の日程調整（空き室待ち時間） などがあります。

具体策について コンピューター管理の導入

当財団では、についてはコンピュータ管理を取り入れ、病院に頻繁に督促を行う方法を近く開始します。については検査機関への迅速化を依頼し、短縮を実現しました。については、移植件数が急増するなかで無菌室や病院スタッフがそれほど増えていないため、一朝一夕の解決は困難ですが、当財団では病院の空き室情報をインターネットで公開し、待ち時間が長い患者さんが、すいている病院に転院を検討できるようなするなど、全体の時間が短縮される効果を出そうと考えています。

コーディネートの各ステップの日数（1998年453例の分析）

期間短縮のための様々な施策を



もちろん当財団の事務作業については、コンピューターシステムによる管理・監視をとりいれ、迅速に漏れや滞りのないよう実施できる体制を固めます。また、コーディネートや移植件数が急増しているのに合わせ、人員も増やしている最中です。連絡通信手段も、郵便から電子メールやファクスに切り替えるなどの工夫をしています。こうした様々な努力をしたうえで、ドナーの方にも、さらなるご協力をお願いしたいと考えています。以下に、ドナーの方に関する主な変更点をご説明します。

変更箇所 患者救命に大きな進歩

一、同時並行コーディネートを行うドナーを三人から五人に変更

これまで一人の患者がドナーの三次検査（HLA確認検査と健康状態確認のための血液

検査）を依頼できるのは、同時に最高でドナー三人までとなっていました（適合ドナー候補者の数などによって、一人だけのときもあれば二人、三人のときもあります）。

アンケートを送付したドナーの方のうち、健康状態やご都合などに問題がなく、三次検査を受けていただけるドナーの方はおよそ半分です。また、主治医・患者が第一候補に選んだドナーが、何らかの理由で最終同意に応じられない率が約一〇%余りあります。

ですから、三人の候補と調整を行っても移植に至るとは限りません。最初の三人の候補が一人、一人と減り、その後、四人目、五人目に加えた候補が最終候補になることも少なくありません。こうしたケースでは、最初から五人を候補にあげられるようになっていけば、大きく期間が短縮されるのです。

二、移植日程の事前調整（最終同意後から

ドナー選定時へ

かつては最終同意が成立してから、採取・移植日程を調整することを基本としていました。しかし、移植病院の待ち時間が三ヵ月あったり、採取病院の日程がなかなかとれないということもあります。そこで、患者側が移植を急いでおり、主治医が病室を確保して移植候補日を指定できる場合には、三次検査の時にドナーの方に、「もしコーディネートが順調に進んだ場合に、提供に心じられる日程」をつかがい、事前に採取・移植日候補を考慮しながら、最終同意、術前健康診断に進んでいきます。

三、ドナー候補解除ルールの明確化

ドナー候補となったとの連絡を受けながら、なかなかその先に進まず、ドナー候補の方に「待機」状態が続くことがあります。いたずらにドナーの方が待機することが増えないように、ルールを明確化します。

ここが変わります

コーディネート業務改革による主な変更点

ファクス・インターネットによる患者登録受付郵送のみから、ファクス・インターネットでも可能に

適合検索を毎日実施

患者に適合するドナーの検索を、月4回から平日毎日の実施とします

「コーディネート開始保留」の廃止

ドナー候補者（以下ドナー）に対し、コーディネートを開始する前に保留することができましたが、できなくなります

並行ドナーコーディネート数の拡大（本文参照）

ドナーへの「開始シート（アンケート）」の前倒し実施と、東京での集約発送・返信（実施済み）ドナー候補者となった方には、まず提供意思確認書と健康に関する問診票を送付しています。従来は、主治医からコーディネートの依頼があったドナー候補者にだけ送付していましたが、今後は検索で適合したドナー候補者すべてに送付します（ただし1患者あたり5人が上限）。また、各地域ブロックにある地区事務局からではなく、東京の「初期コーディネート担当」からの送付となります

移植病院への毎週レポート送付

患者に適合しているドナーのコーディネート状況を一览したレポートを毎週、登録責任医師にファクスで送信します

遅延管理の徹底

財団内部、登録責任医師などの作業進行状況をコンピューターシステムで監視し、作業や提出の期限が迫っているものを自動的にリストアップして、注意を喚起します

採取・移植日程の事前調整の開始（本文参照）

ドナーの方にお願 い 待機する場合もあります

ドナーの方に待機をお願いする理由はさまざまです。たとえば、患者の方の病状が不安定で移植前に別の治療を入れなければならないようになったとき、複数のドナー候補がいて適合度が一番良いドナーを選定したいが、ドナー候補の結果が出揃うまで待っているとき、などがありません。しかし、患者や主治医がただ決断を先延ばしすることで、いたずらにドナー候補を心理的に拘束されたような状態に置くのでは、ドナーの負担が増えてしまいます。

そこで、ドナーの三次検査の結果が判定してから主治医・患者が「ドナー選定」（最終同意を依頼するドナーとして選定すること）をするまでの期限を明確に三ヵ月に区切ることにします。

ただし、一人のドナーの方と最終同意が成立しても、別の一人のドナーの方は、第二候補として待機していただきます（ドナー候補が複数いる場合のみ）。それは、最終同意後も採取前健康診断などで、約四〇%のドナーが提供できなくなるからです。なお、一定期間以上、第二候補の方にお待ちいただく場合には、ドナーの方のご意向をおうかがいしながら進めさせていただきます。

今年四月から九月までの半年間で、ドナー登録をされた方のうち一九二二人の方が三次検査を受けられ、四九〇人の方が最終同意をいただき、三四二人の方が骨髄提供者となりました。心より感謝いたします。当財団では、コーディネートの基本的流れとルールを記述した「コーディネーター業務・基本マニュアル」を近く公開し、皆様にコーディネートのための基本的流れをより詳しく説明していくこととします。

新しい登録会、ぞくぞくと

集団登録会の実施要綱の改訂により、キャンペーン登録会を当財団だけでなく、各都道府県、政令市、23区、保健所も主催できるようになりました。また事前協議により日本赤十字血液センターの行っている献血会場での、ドナー登録受付もできることとなり、新しい型のドナー登録会が次々と開催されています。

沖縄で



沖縄では昨年11月より、県赤十字血液センター、支援団体、地区普及広報委員などの協力で、献血およびドナー登録受付会を実施し、実績をあげています。現地関係者は年間70回程度の開催が可能だとし、「1回の登録者数は平均10人程度と決して多くはありませんが、無理なく続けることができる。骨髄バンク登録受付も同時に行うことで、献血者が減ったということもない」と話しています。

ご希望の方を受付します（献血される方は、献血と併せてドナー登録の希望をお聞きます）。

1. 受付

ライオンズクラブのご協力で



8月24日には、東京都中央区立産業会館で、東京秋葉原ライオンズクラブ他協賛の献血会会場でのドナー登録会が開催されました。事前のPRもなく、当日受付のみだったにもかかわらず9人の方にご登録いただきました。ライオンズクラブでは献血会を定例的に実施されており、今後は来場の方にドナー登録へのご理解も深めていただけるよう、普及啓発に力を入れていきたいとの方針を示されています。

登録条件をご説明し、登録から骨髄提供までを説明したビデオ（約15分）をご覧のうえ、申込書に記入いただきます。

2. ビデオ・説明

職場で



三井化学市原工場（千葉県）では8月16日の団体献血会で、ドナー登録会が並行実施されました。企業の団体献血時の試みとしては全国初。事前のPRはパソコンの電子掲示板を使って全社員にむけておこなわれ、盆休み中にもかかわらず、50人の献血者と9人の骨髄ドナー登録がありました。要綱の改訂により事業所の診療室等を利用した登録会の開催も可能になり、職域での登録するチャンスが広がっています。

登録にあたって健康状態に不安がある方は、問診医師にご相談いただくこともできます。

3. 問診

県庁で



（写真：中日新聞社提供）

愛知県庁西庁舎では、8月9日、10日の両日「献血会と並行した骨髄ドナー登録受付会」が実施され47人の登録者がありました。官庁街である名古屋市三の丸地区は、年2回、1000人規模の大規模献血会が行われています。今後、ドナー登録会も定例化することにより、骨髄ドナー特別休暇がありながら、これまで、なかなか登録する機会がなかった公務員の方々に、積極的にご登録いただけるものと思います。

10cc程度採血します（献血される方は、通常の献血と同時に登録用の採血をします）。

4. 採血

Topics

書籍紹介

「わたしたちを忘れないで
ドイツ平和村より」



東 ちづる 著

価格：1300円（税別）
発行：ブックマン社

涙と感動の
体験記

テレビ番組「世界ウルルン滞在記」でドイツ国際平和村を訪れた著者の体験談。世界各地の戦争で傷ついた子ども達が集まり、治療とリハビリを行う平和村。そこで生活をともにした東さんが語る涙と笑いと感動のエピソード。「生と死」「ボランティア」についての項は日頃から積極的にボランティア活動に参加されている著者ならではの説得力。骨髄バンクのボランティア活動にも触られています。さわやかで、深い余韻が残る一冊です。

「患者さんと主治医のためのパンフレット」



編集：骨髄移植推進財団
医療委員会

病気への理解を
深めるための
解説書

骨髄移植を希望される患者さんが、ご自身の病気や治療法について正しく理解し、主治医の先生と一緒に読みいただき、ご自身にもっともふさわしい治療法を選択していただけるよう、事実に基づき、わかりやすく説明した解説書。お申し込みは当財団フリーダイヤル0120-377-465)かファックス(03-3355-5090)に住所、氏名、電話番号、部数、関係者区分(患者、患者家族、医療関係、支援団体、その他)をお知らせください。

「いのちのあさがお」映画完成



1993年秋に、急性リンパ性白血病で亡くなった新潟県中条町の丹後光祐君（当時7歳）と、光祐くんが育てたアサガオの種がはぐくんできた物語を描いた、綾野まさる著「いのちのあさがお」（ハート出版）を原作とした映画（16ミリ版）が完成しました。制作は、東映・教育映像部で、上映時間は35分です。VHS版も同時に完成しており、教育用映画として、ビデオライブラリーや教育機関への購入配置が期待されます。

映画の完成とあいまって、雑誌やテレビで、2年前、新潟市で開催された「全国都市緑化にいがたフェア」に出席された際の紀子さまのエピソードが紹介されました。紀子さまは「いのちのあさがお」のパネルに目をとめられ、アサガオの種を手に、本をパラパラとご覧になっておられるうちに、ふいに涙ぐまれ、「これは本当にあったお話ですか。小学校の低学年向きですか？」と対応したボランティアにお尋ねになりました。そして、とても感動されたご様子でした。

友情再演、大好評 森首相も鑑賞

演劇「友情」が8月から10月にかけて、東京と関西地区で再演されました。8月16日、「友情」の出演者である若者たちと演出家、プロデューサー、当財団関係者など総勢28人が、首相官邸を訪れ、森喜朗総理と面会し激励を受けました。医師役で出演の政治評論家・三宅久之さんのお声かけで実現したもので、森総理は丸坊主の出演者たちにびっくり。「女の子も役柄とはいえ大変ですね」と問いかけられ、「母親に泣かれました」との返事に大きくうなずかれていました。8月26日午後、早朝に南西アジア4カ国歴訪から帰国したばかりの森首相は、東京・品川区の天王洲アイル・アートスフィアを訪れ、智恵子夫人と共に

演劇「友情」を鑑賞されました。終了後、舞台上上がった森首相は「涙がでてしようがなかったが、隣の家内に悟られまいと頑張った」と会場をなごませ、さらには「とても感動した。演劇・友情を全国展開できるよう働きかけたい。骨髄バンクのドナー登録推進にもできる限りのことをしていく」と力強く支援を表明されました。関西地区でも大阪府、京都府、兵庫県の各知事への表敬訪問がおこなわれ、それぞれの知事から出演者たちへの激励がありました。「友情」は来年、名古屋公演が決定しており、さらに原作のベースとなった実話が生まれたアメリカでの公演が企画されています。



様々な分野で、地域で、多くの方々が骨髄バンク普及に心を傾けてくださいました。皆様のご支援によりバンクがこれまで発展してこられましたことに深く感謝し、なお一層の発展を目指し努力を重ねてまいります。これからも皆様が変わらない、温かいご理解、ご支援をお願いいたします。

大泉逸郎・バンクチャリティコンサート 収益金をバンクへ



演歌では18年ぶりのミリオンセラーとなった「孫」。この曲を歌っている大泉逸郎さんは地元山形県でサクラノボ栽培のかたわら、歌手として活躍なさっていますが、白血病を発病した息子さんに、1997年、骨髄提供をしたドナー体験者でもあります。今年、一気に全国区の歌手となられた大泉さんは、そのぼくとつとした語り口で、コンサートやマスコミの取材の際にも、ドナー体験や、骨髄バンクについてお話をいただき、普及活動にご協力をいただいています。9月7日（木）には東京・浅草公会堂で「骨髄バンク支援のためのチャリティコンサート」を開催され、約200万円あまりの収益金はすべて日本骨髄バンク（当財団）にご寄付くださいました。

説明員研修会が 開催されています

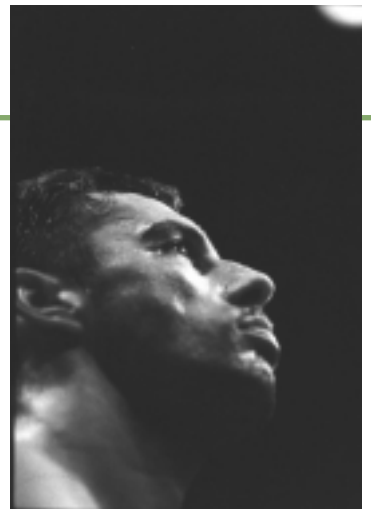
各地でさまざまな形での登録会が開催されています。それに従って登録を希望される方々に適切な説明をし、受付業務を行う説明員の役割も重要になり、その増員が急務になっています。現在、財団では説明員の研修制度を設け、説明員を認定し、業務を委嘱するシステムを「説明員研修プログラム」として準備中です。多くの方に研修会に参加していただき、説明員としてのバンクへのご協力をお願いする次第です。

アンディ・フグさん復活

新しい公共広告機構（AC）キャンペーンCMは、アンディ・フグさん。啓発ポスターも特別印刷しました。骨髄バンクの推進役としての復活です。

格闘技の「K-1」の王者だった「アンディ・フグ」さんは、今年8月、急性骨髄性白血病のため急逝されたことが、マスコミで大きく報道されました。入院先の病院からファンの方々に対し、「今度の敵は白血病。今までで一番の強敵。だが、必ず勝つ。元気になったら、同じ病気で苦しんでい

る人を一人でも多く救いたい」と力強いメッセージを伝えられ、大きな感動を呼びました。今回、スイスにおられるご遺族とK-1事務局の暖かなご理解により、骨髄バンクのために、特別にTV映像、写真等の使用を許可していただいたものです。



ホームページで「移植希望患者早期受け入れ可能な施設一覧表」を公開

骨髄移植推進財団が認定している非血縁者間骨髄移植施設のなかで、比較的早期に移植希望患者さんの受け入れが可能な病院を、当財団のホームページで公開しています。財団の各移植施設調査の結果を取りまとめたもので、1ヵ月ごとに更新されます。主治医、患者・家族の方々が、移植病院を決定するうえでの参考となるものと思います。各施設の受け入れ状況は日々変化しますので、実際に受け入れが可能かどうかは、各施設にお問い合わせのうえ、ご確認をお願いいたします。ホームページアドレスは、<http://www.jmdp.or.jp/pt> または <http://www.jmdp.or.jp/pt/Page.html>

皆さんの声を大募集します

これまでの3000例の移植に関わったすべての方々の、さまざまな思いを「声」としてお寄せ下さい。手紙、手記、写真、ビデオ、録音テープ、詩歌などジャンルは問いません。今後のバンクのイベントなどで紹介していきたいと思っております。詳しくは財団事務局 広報渉外部までお問い合わせください。

お知らせ
コーナーです!

住所変更届けハガキ

本紙は骨髄データセンターのご協力により、すべてのドナー登録者の皆さま、お一人お一人にお送りしています。住所・氏名等に変更のあった方は、同封の変更届けをFAX、または郵送にて、骨髄データセンターへお知らせください。

毎年多くのドナー登録の方々が、就職、結婚、転勤などで住所変更したり、結婚で名字が変わっています。変更手続きがないと、ご連絡がとれなくなり、バンクニュースをお送りすることもできなくなってしまいます。

前号のバンクニュース（第16号）からは郵送の宛名台紙を加工し、そのままFAXまたは返信ハガキとして変更届けを出せるようにしました。これにより、約8000通もの変更届けが寄せられました。本号でも同様の方式を採用

たくさんのご参加、ご応募お待ちしております！

12月9日、全国大会開催



1998年全国大会

12月は骨髄バンク推進月間です。骨髄移植件数3000例までの道のりを振り返り、ドナー登録者30万人を目指して、21世紀への展望を探る全国大会を12月9日（土）、京都市左京区の国立京都国際会館で開催します。参加は無料で、どなたでもご参加いただけます。多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

「骨髄バンク推進全国大会2000in京都」

2000年12月9日（土） 18時10分～20時00分

会場：国立京都国際会館「メインホール」 京都市左京区宝ヶ池

主催：財団法人骨髄移植推進財団 共催：日本造血細胞移植学会

後援：厚生省、日本赤十字社、京都府、京都市、全国骨髄バンク推進連絡協議会

参加無料

全国大会に関するお問合せは TEL 03-3355-5041

日本小型自動車振興会からの補助について

本年度も普及啓発ポスター、パンフレット、リーフレットは「オートレース公益資金」の補助により発行しています。

ご協力いただいています

以下のパソコン通信サービスには、骨髄バンクのコーナーがあります。

- ・@nifty GO MARROW
- ・ピープル GO MARROW
- ・PC-VAN JMARROW

登録ボランティアを募集しています

骨髄バンクの応援をしていただく「登録ボランティア」を募集しています。東京都新宿区の財団事務局で手伝いいただく「財団活動支援タイプ」と各地区の骨髄バンク支援団体をご紹介する「各地支援団体紹介タイプ」があります。FAX 03-3355-5090まで、「登録ボランティア説明書希望」と住所・氏名を明記のうえお送りください。折り返し資料をお送りします。どうぞふるってご応募ください。